

4. 応急措置

- 吸入した場合：空気の新鮮な場所に移動させ、体を毛布等で覆って保温し安静に保つ。
呼吸困難に陥った場合は、衣類を緩め気道を確保した上で酸素吸入あるいは人工呼吸を施す。
必要に応じて、医療措置を受ける。
- 皮膚に付着した場合：汚染された衣類、靴等を速やかに脱ぎ捨てる。
付着した部分は流水で流した後、石けんを用いてよく洗い落とす。
必要に応じて医療措置を受ける。
- 眼に入った場合：清浄な多量の水で最低15分間眼を洗浄した後、眼科医の手当を受ける。
洗眼の際、まぶたを指でよく開き、眼球のすみずみまでよく水が行きわたるように眼を上下左右に動かす。
- 飲み込んだ場合：水で口の中をすすぎ、無理に吐かせてはならない。
嘔吐が自然に起こった場合は、気管に入らないように身体を傾ける。
肺に入ると化学性肺炎を引き起こす可能性がある。
直ちに医師の手当てを受ける。

5. 火災時の措置

- 消火剤：二酸化炭素、泡、粉末、乾燥砂、水噴霧
- 使ってはならない消火剤：強力な棒状注水は、火災を拡大させる可能性がある。
- 火災時の特有の危険有害性：有毒なガス(一酸化炭素、硫黄酸化物等)が発生するおそれがある。
- 特有の消火方法：初期の火災には、粉末、二酸化炭素、乾燥砂などを用いる。
大規模火災の場合は、泡消火剤で空気を遮断し、一気に消火する。
周辺火災の場合は、周辺の設備などに散水して冷却する。
移動可能な容器は速やかに安全な場所に移す。
消火水や希釈水の流出により環境汚染を引き起こさないように注意する。
- 消火を行う者の保護：消火作業は必ず自給式呼吸器等の保護具を着用し、風上から行う。

6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項、保護具及び緊急措置：漏出した場所の周辺にロープを張るなどして関係者以外の立入りを禁止する。
風下で回収作業をしてはならない。
回収作業の際には保護具を着用すること。
- 環境に対する注意事項：土壌に浸透させてはならない。下水、河川、排水溝等に流してはならない。
- 封じ込め及び浄化の方法及び機材：少量の場合はペーパータオル、ウエス等に吸収させ、密閉式の容器に回収する。
多量の場合は土砂等で流れを止め、液の表面を泡で覆い、乾燥砂又は不燃性吸着剤に吸収させ、密閉式の容器に回収する。
火花を発生しないシャベル等を使用する。
付近の着火源となるものを取り除き、火災発生の防止に努める。
回収物は「13.廃棄上の注意」の項の記載に準じて処分する。

7. 取扱い及び保管上の注意

- 取扱い：付近での火気の使用を禁止し、アースを取る等の静電気対策を行う。密閉された装置／機器類を使用するか、局所排気装置を使用して取扱う。
蒸気の吸入及び皮膚との接触は極力避ける。
ばく露のおそれがある場合には、適切な保護具を着用する。
長期間の取り扱い、あるいは反復したばく露はできる限り避ける。
作業後は石けんを用いて手洗いや洗顔を励行する。
- 保管：直射日光及び高温を避け、乾燥した換気のよい場所に保存する。
容器は確実に密閉し、保管場所は火気厳禁とする。
危険物施設で保管し、施錠をして管理すること。
硫化水素ガスが発生するため、70℃以上で保管しないこと。
酸化剤から離して保管する。

8. ばく露防止及び保護措置

- 設備対策：設備／装置全体を密閉化するか、局所排気装置を設置する。
取扱い場所近くに、洗眼器および身体洗浄シャワーを設置する。
状況に応じて、可燃性ガス・有毒ガス測定器、可燃性ガス警報器を設置する。
- 管理濃度 作業環境評価基準：設定なし
許容濃度
- 日本産業衛生学会¹⁾：3 mg/m³ (鉱油ミスト)
ACGIH-TLV²⁾：設定なし
- 保護具
- 呼吸用保護具：有機ガス用防毒マスク、送気マスク、空気呼吸器等
手の保護具：不浸透性の保護手袋
眼の保護具：保護眼鏡又は防災面
皮膚及び身体の保護具：不浸透性の保護衣、保護長靴、前掛け、長靴

9. 物理的及び化学的性質

- 外観：茶褐色液体
臭い：潤滑油臭
沸点：データなし
引火点：200℃以上
燃焼又は爆発範囲の上限・下限：データなし
蒸気圧：データなし
密度(15℃) g/cm³：0.93
発火温度：データなし
水溶解度：微溶
動粘度：130mm²/S(40℃)、19mm²/s(100℃)

10. 安定性及び反応性

- 安定性：通常の実験条件においては安定。
危険有害反応可能性：混触危険物質に触れると反応するおそれがある。
避けるべき条件：直射日光、熱、裸火、スパーク、静電気
混触危険物質：酸化性固体、酸化性液体、強酸化剤
危険有害な分解生成物：燃焼により有毒ガス(一酸化炭素、硫黄酸化物等)が発生するおそれがある。

1 1. 有害性情報

急性毒性

[経口毒性] : 製品のGHS分類結果(区分外)
 鉱油 ラット LD₅₀ >5000 mg/kg
 2,6-ジ-tert-ブチ
 ル-4-メチルフェノ
 ール

製品

本製品自体のデータなし

[経皮毒性] : 製品のGHS分類結果(区分外)
 鉱油 ラット LD₅₀ >5000 mg/kg
 2,6-ジ-tert-ブチ
 ル-4-メチルフェノ
 ール

製品

本製品自体のデータなし

[吸入毒性] : 製品のGHS分類結果(分類できない) ; 成分のデータなし

皮膚腐食性及び皮膚刺激性 : 製品のGHS分類結果 ; 区分2

製品 ウサギ 皮膚刺激性試験(OECD TG404、GLP)で製品含物質は刺激性ありとされている(IUCLID, 2000)。またそれらに類する化合物も皮膚刺激性あるとされている³⁾ことから区分2とする。

眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性

: 製品のGHS分類結果 ; 区分2A

製品 ウサギ 眼刺激性試験(OECD TG405、GLP)で製品含物質は非常に刺激性ありとされている(IUCLID, 2000)。またそれらに類する化合物も目刺激性の可能性があるとされている³⁾ことから区分2Aとする。

呼吸器感作性 : 製品のGHS分類結果(分類できない) ; 成分のデータなし

皮膚感作性 : 製品のGHS分類結果 ; 区分1

製品 構成成分の組成からは分類できないが、製品含有物質に皮膚感作性が認められており、メーカーが区分1と分類しているため、区分1。

生殖細胞変異原性 : 製品のGHS分類結果(分類できない) ; 成分のデータなし

発がん性 : 製品のGHS分類結果(分類できない) ; 成分のデータなし
 IARC、ACGIH、産衛の発がん性物質のリストには記載されていない。

生殖毒性 : 製品のGHS分類結果(分類できない) ; 成分のデータなし

特定標的臓器毒性(単回ばく露) : 製品のGHS分類結果(分類できない) ; 成分のデータなし

特定標的臓器毒性(反復ばく露) : 製品のGHS分類結果(分類できない) ; 成分のデータなし

吸引性呼吸器有害性 : 製品のGHS分類結果(分類できない) ; 成分のデータなし

1 2. 環境影響情報

生態毒性 : 製品のデータなし/つなぎの原則⁴⁾を適用した結果、GHS分類は水生環境有害性(急性・慢性)ともに区分3

残留性・分解性 : 製品のデータなし

生体蓄積性 : 製品のデータなし

土壤中の移動性 : 製品のデータなし

オゾン層への有害性 : 製品のデータなし

1 3. 廃棄上の注意

- 残余廃棄物 : 残余廃棄物は、ケイソウ土等に吸収させ、焼却炉で少量ずつ焼却するか、アフターバーナー及びスクラッパーを備えた焼却炉の火室へ噴霧し焼却する。
 焼却灰は法規に従って処理すること。
 多量の場合は認可を受けた専門業者に委託する。
 関係法令を遵守し、自治体の指示に従うこと。
- 汚染容器及び包装 : 容器は洗浄してリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行うこと。
 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

1 4. 輸送上の注意

- 国連番号 : 非該当
 品名(国連輸送名) : 非該当
 国連分類 : 非該当
 容器等級 : 非該当
 応急措置指針番号 : 非該当
 海洋汚染物質 : 非該当

1 4. 輸送上の注意(続き)

- 輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策 : 車両等によって運搬する場合は、荷送人は運送人に運送注意書(イエローカード)を渡す。
 容器の破損、洩れ、栓の閉まり具合を確かめ、衝撃、転倒、落下、破損のないように積み込み、荷崩れ防止を確実に行う。
 タンク車(ローリー)への充填や、積み下ろし作業の際は、サイドブレーキをかけ、エンジンを停止させ、車止めを施す。
 「7. 取り扱い及び保管上の注意」の記載に準じて取扱う。
 輸送関係法規を厳守する。

1 5. 適用法令

- 消 防 法 : 危険物 第4類 第4石油類 (指定数量 6000リットル)
 化 審 法^{*1} : 優先評価化学物質 : 2,6-ジ-tert-ブチル-4-メチルフェノール
 労働安全衛生法 : 鉱油 : 168
 (表示・通知義務対象物質) 2,6-ジ-tert-ブチル-4-メチルフェノール : 262
 毒劇物取締法 : 非該当
 化学物質排出把握管理促進法(PRTR法) : 非該当

※1 : 第1種特定化学物質、第2種特定化学物質、監視化学物質、優先評価化学物質

